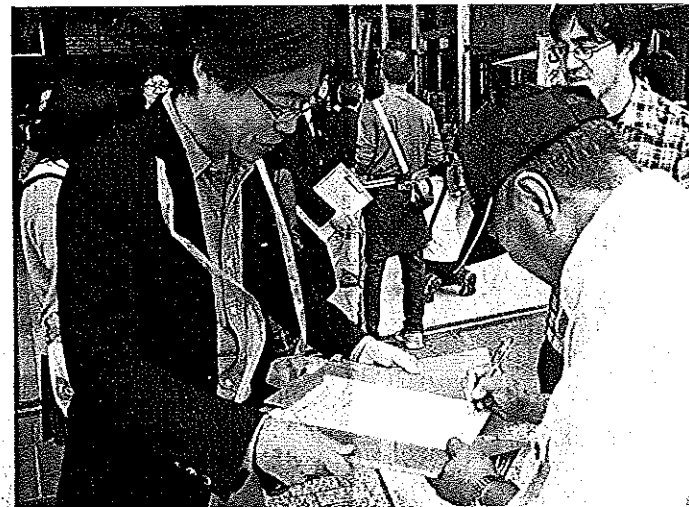


県内総合

お台所のパートナー
やさしい・くだもの
株式会社 八百邦
本部 ひたちなか市枝川二〇一七
TEL 029(210)1161 五

労働環境改善訴え

看護師ら街頭で署名活動



看護職員の離職を防止し、労働条件を改善しようと、全国200万人体制の看護職員を目指す街頭署名活動が3日、JR水戸駅前で行われ、現役看護師らが通行人にチラシを配って署名を呼び掛けた。自治労の全国活動の一環。7月中旬に署名をまとめ、厚生労働大臣に提出し、二〇一四年の診療報酬改定に反映させたい考え。

水戸

臣に提出する。自治労県本部傘下の県内4公立病院の看護職員ら約40人が参加。街頭での署名活動は初めてという。

長時間労働など労働環境の厳しさから離職に歯止めがかからないという。参加した女性看護師(53)は、腰を痛め、来年には退職するとう。労働条件を改善しなければ、若い人が入ってこなくなってしまう」と、仕事を続けられない悔しさを打ち明けた。

自治労は今後、全国の署名を集約し、看護師養成の促進や再就職の支援、離職防止に向けた法整備、診療報酬の改善などを国に求めていく。同県本部の高みよ副委員長は「今の看護職員は12時間労働、夜勤は月9、10回にもなっている。労働環境を改善しなければならない」と訴えた。(沢利彦)

看護職の待遇改善を

自治労 水戸駅前で初の署名活動

医療現場の看護職員の労働条件改善などを求めて自治労県本部は三日、JR水戸駅前ですべて署名を求めた。自治労による県内での署名活動は初めて。

長時間のきつい労働で若い看護職員の離職率が高く、人手不足から夜勤や勤務時間が増える悪循環に陥っている。

水戸駅前南北口では、県や市立病院の看護師、自治労県本部役員ら約四十人が、駅利用者や買い物客らにチラシを手渡し、署名を呼び掛けた。同本部の大高みよ副委員長は「半年で看護職員の1割が辞めてしまつ。復帰しやすく、働きやすい環境づくりが必要」と訴えた。(林容史)

自治労の訴えに賛同して署名する市民ら。水戸市で

